授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論ⅠA	・衣服全般の基礎知識を習得する。（縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察） ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 ・ドレーピングの基礎知識を習得する。（ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング） 1　基礎Ⅰ（一般知識・縫い方の基礎）　基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2　体型研究　身頃原型・スカート原型（1/4・実物作図）・トワル製作・試着補正・レポート 3　スカートⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 4　シャツブラウスⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 6　子供服　デザイン・パターン・実物製作・レポート 7　バザー作品　文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8　スカートⅡ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 9　ジャケットⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 10　ワンピースドレスⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 11　パンツⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 12　ドレーピング基礎（文化ボディ）　胸ぐせダーツのバリエーション（アームホールダーツ）	1・前期	60	2	○			○		○		
○			服装造形デザインⅠA		1・前期	30	1			○	○		○		
○			服装造形パターンメーキングⅠA		1・前期	30	1			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅠA		1・前期	90	3			○	○		○		
○			服装造形論ⅠB		1・後期	60	2	○			○		○		
○			服装造形デザインⅠB		1・後期	90	3			○	○		○		
○			服装造形パターンメーキングⅠB		1・後期	90	3			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅠB		1・後期	120	4			○	○		○		
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について、関心を持たせることを目標とする。前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、工業用ミシン、アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得する。後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。	1・通年	30	1	○		△	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究ＩＡ	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究ＩＢ	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後	30	1			○	○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・通年	30	1	○			○		○		
○			ファッションデザイン画Ｉ	ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○	
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾デザイン論Ⅰ	教育目標　:服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定:色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・通年	30	1			○	○		○		
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			キャリア開発Ⅰ	・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			校外研修Ⅰ	・都会生活から離れた「山荘」における団体生活の体験。 ・野外活動・体育活動など諸活動を通して指導力・協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める。	1・前期	30	1			○		○	○		
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動（コンテスト活動など）への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○		○		
合計				23科目	1,110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルデザイン論ⅠA	人体の構造や運動機能を視野に入れ、素材の特性を活かした作品を平面裁断、立体裁断のテクニックにより個々のデザインの発想力と表現力を身につける。 1、ドレーピング スカート、胸ぐせダーツ、ブラウスドレーピングによるデザイン発想（実物製作・レポート） 2、機能服からのデザイン発想 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 3、バザー作品 文化祭バザー作品、グループ製作 4、ジャケット ドレーピング、作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 5、民族服 作図理論 6、皮革作品 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 7、修了製作 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・前期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習デザインⅠA		2・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習ドレーピングⅠA		2・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習実技ⅠA		2・前期	60	2			○	○		○		
○			アパレルデザイン論ⅠB		2・後期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習デザインⅠB		2・後期	90	3		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習ドレーピングⅠB		2・後期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習実技ⅠB		2・後期	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅡA	将来的に戦力となるデザインワークを身に付け、各自の個性とセンスの光る感性あるファッションデザイン画の表現を目標とする。	2・前期	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅡB	将来敵に戦力となるデザインワークを身に付け、各自の個性とセンスの光る感性あるファッションデザイン画の表現を目標とする。	2・後期	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デッサン	ものを見る目を養う＝対象物を客観的に見つめ。基本構造（構成、動き、立体感、質感など）をとらえる。見たものをそのまま描ける力＝感覚神経と運動神経の連係プレーを鍛える。描く、という事によって自分のクリエーションに新たな視点を見つける。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			色彩論	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザインに活用するための配色の技術、色彩計画の考え方を学習する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			造形演習	発想―表現―コミュニケーション　3つを連動させながらクリエーションの力をつける。特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかり組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。発想力、（特にグラフィックにおける）表現力、、伝える力（プレゼンテーションスキル）の強化を目指します。	2・後期	30	1		○		○			○	
○			アパレル染色演習Ⅰ	染色に関する基礎的な知識と技法を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレル制作に応用展開できる能力を養う。さらに、染色・加工の観点からテキスタイルについての理解を深めさせることを目標とする。	2・前期	30	1		○		○		○		
○			アパレル素材論Ⅱ	1年次の「アパレル素材論Ⅰ」で学んだ素材の知識を踏まえ、基本的知識を充実させ、アパレルデザインにおけるテキスタイルという観点から、素材の見方、選択のポイント、テキスタイル産地などについて、さらに消費性能面から判断し布地の選択や品質表示にもつながるよう知識と理解を深める。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			服装解剖学Ⅱ	1年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測（石膏計測）実習により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計（デザイン）を行う。	2・前期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス論Ⅰ	ファッション業界に於けるビジネス業務推進に必要な知識について具体例を通して学習しながらファッションビジネスの基礎知識を学習・修得する。 既存のブランドをグループごとに担当し、企業と同じ手順で企画を行う事により、実践的なビジネス演習を行い修得する。	2・後期	30	1	△	○		○			○	○

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	アパレル商品企画Ⅰ	1. アパレル製造業のデザイナーの実務をベースに、企画MDの実学を通しデザイナーの育成を目指す。 2. ブランディングを学び、オリジナルブランド立案に伴うコンセプト設計やターゲット設定、ブランドのゾーニングなどの基本を習得。	2・後期	30	1	○			○			○	
○			西洋美術史	私たちの美意識の源泉となっている西洋美術のなりたちをたどる。 過去の名作に通じて、美術表現の意味や可能性について考える。 また、各時代：作者の様式を成立させた文化的、社会的背景を探ることにより美と社会との関わりを意識する。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		英会話Ⅰ	英会の基本的な文法を学習したレベルを想定し、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。ファションを専攻しているがくせいなのでファッションに関する語彙なども導入する。	2・通年	60	2			○	○		○		
	○		フランス語Ⅰ	フランス語を初めて学ぶ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単で日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニーケーションをフランス語でできることを目指す。	2・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワークⅠ	ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上を目指す。 CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術 ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作と ペイント系ソフト/Photoshopでの基本操作	2・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		創作研究Ⅰ	コンテストを中心に積極的にデザイン画を描き、デザイン感覚と技術を養う。また、入選した場合は製作時間として作品製作に取り組む。コラボレーションなどのイベントにも参加する。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			キャリア開発Ⅱ	企業が学生に望む資質として、①コミュニケーション能力②協調性③主体性の3つが上位を占めています。就職戦線は年々厳しさが増してきており、専門的能力のみならずバランスのとれた「人間力」重視の考え方が目立っています。　企業側が「即戦力的人材」を求めている現況から、協調性、積極性、意思疎通の実効性等に重点を置き各自の実践力を養成して期待される社会的視野を持った人間として育成していきたい。	2・後期	30	1			○	○			○	
○			校外研修Ⅱ	日本の伝統文化の中心である古都(京都、奈良)に赴き、仏教美術、仏像建造物、庭園などの美に触れ、またファッションショーや美術館の展示を鑑賞することによって感性、発想力を養い、美の本質を知り、教養を高める。	2・後期	30	1			○		○	○		
○			特別講義Ⅱ	アパレル産業の現状、先輩の実体験からのアドバイス、そして服飾造形にかかわる知識として、レギュラー授業に加えたい内容の講義。	2・通年	60	2	○			○		○		
	○		企業・学内研修a	アパレル業界の現場・現状を把握させるために、アパレル企業で実際に研修を受けることで、学校教育で体験できない実学を学ぶ。就職希望者の企業研修期間中に平行して、企業研修に参加しない学生は学内研修を受講	2・後期	30	1			○		○	○		
	○		企業・学内研修b		2・後期	30	1			○		○	○		
		○	コラボレーションb	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する。	2・後期	30	1			○	○		○		
学年合計				29科目	1,110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルデザイン論ⅡA	ファッションの多様化、個性化に対応しつつ、アパレル業界での企画及びデザイナーとして活動していく人材を育成する。課題のトータルな学習に伴い、個性を生かした感性の高いバランス感覚を養いながら、上級としての応用理論の実践と研究を展開する。 1. 水着・インナーウェア　デザイン・パターン・実物製作・レポート 2. カジュアルスーツ　デザイン・パターン・実物製作・レポート （奈良コラボレーション作品） 3. バザー作品　文化祭バザー作品、グループ製作 4. ニューフォーマル　デザイン・パターン・実物製作・レポート 5. エルゴノミックワンピース　ウール素材、チェック柄、半身立体、くせとり、実物半身縫製 6. ウィンターコート　デザイン・パターン・実物製作・レポート 7. 自由研究	3・前期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習デザインⅡA		3・前期	90	3		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習ドレーピングⅡA		3・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習実技ⅡA		3・前期	60	2			○	○		○		
○			アパレルデザイン論ⅡB		3・後期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習デザインⅡB		3・後期	90	3		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習ドレーピングⅡB		3・後期	90	3		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習実技ⅡB		3・後期	60	2			○	○		○		
○			工業ニット演習	・ニットの基礎知識を習得し，指示書作成のための商品知識を理解する ・ニットの服作りのための基礎技術及び縫製方法を理解する（横物及び丸物）	3・後期	30	1		○		○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅲ	各自のデザインテーマを設定し、年間を通して様々な角度からバリエーションの幅を広げる。アパレルデザインのプロとして必要とされる表現方法、又相手に対するプレゼンテーションの方法、自らをアプローチする方法を常に意識し考えながら表現し、作品制作を目指していくことを目標とする。	3・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションマーケティング	アパレル業界に於けるマーケティング業務の実務を講義と演習により指導し、ファッションマーケティングの基礎知識を習得させる。	3・前期	30	1	△	○		○			○	○
		○	アパレルマーチャンダイジングⅡ	1. 2年次に立案したオリジナルブランドのシーズン企画の基本的な手法を学ぶ。 2. トレンド分析、マーケットリサーチを分析した上で、シーズンコンセプトの設定を行い、店頭MDに即した企画立案、商品企画＆デザインを行う。	3・前期	30	1	○			○			○	
○			グラフィックワーク	アドビ・イラストレーターを使っての精密なハンガーイラストの作成及びデザインデータの展開、先染柄やプリント柄の図案作成などを学び、ビジュアル・プレゼンテーション（企画書)製作を習得する。また、デザイン画をC.Gで描く事、バッグやベルト等の小物アイテムを描く事を学び、デザイン・企画の展開スピードのアップと「見る人にとってわかりやすい見せ方」を習得する。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			プリントデザイン	ハンドスクリーンプリントの実習を通して、プリント生地の一連の工程を把握し、合せてその他の捺染機器の仕組みや特徴を理解する。それにより染色加工業の実務を理解し、アパレルデザイナーとしての対応力を強化する。（グループ実習）	3・後期	30	1			○	○		○		
○			アクセサリー	アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。アンティークや新しい素材を幅広く取りこみ、オリジナリティの高い作品、アートアクセサリーの制作、そして服作りのヒントにと意識している。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			美学	西洋美術の歴史を学びながら、実際のデザイナー達がどのようにアートにインスパイヤされてコレクションをクリエイトしているかを、実例をあげながら学んで行きます。	3・後期	30	1	○			○			○	
○			プレゼンテーション論・演習	これからのデザイナーにもっとも必要で、且つ日本でファッションを学ぶ生徒達が一番欠けているコミュニケーション能力を高める事を目指す授業です。	3・前期	30	1	○	△		○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		英会話Ⅱ	英会話Ⅰを履修した学生対象のコースで、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みる。	3・通年	60	2			○	○		○		
	○		フランス語Ⅱ	毎回フランス語の発音・表現に親しみながら、基本文法の理解に基づく平易な文章読解および日常会話に必要なスキルの向上を目指す文化の多様性に意識を向け、母国語とは異なる言語の仕組みや発音の特徴を興味を持って意識できる機会を多く設ける。目標レベルは、実用フランス語技能検定試験5～4級	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワークⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。衣服製品図/デジタルファッション画の展開力、応用力、細部表現等、実務能力習得を目指す。ブランドロゴ及びブランディングツール製作を通してグラフィックによるファッションブランディングの意識を養う。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		創作研究Ⅱ	各自の作品制作のための創作研究、卒業制作作品に向けての研究活動、過去作品のポートフォリオ製作時間として取り組む。また、コンテスト活動やコラボレーション・イベントの課外活動なども参加し、デザイン感覚と技術を養う。コンテストへ入選した場合は制作時間として作品制作に取り組む。各自に上記内容を参考に年間スケジュールを自由に立てさせ、課題として年度末に1年間研究した内容をまとめたものをレポートにして提出をし、評価の値とする。年間研究のレポート内容をプレゼンテーションさせ、あわせて評価対象とする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			特別講義Ⅲ	アパレル業界で活躍している講師を招聘し、実社会の動向、現状、情報、未来への展望や、様々な関わりに対処する為の考え方、アドバイスを経験者の生の声で語って頂き、社会に目を向け、自己を見つめ直す機会として参考にする。	3・通年	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	コラボレーションc	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			卒業研究・創作	3年間の集大成として作品を創作する。最終課題にふさわしいテーマを個々に設定し、独創的かつ自由なデザインで挑戦する。オリジナル素材作りに始まり習得したテクニックを思う存分に駆使する。アクセサリーからヘア・メイク、音響効果・照明・映像などに至るまで総合的にデザインを生かしてコーディネートし、卒業制作ショーで発表する。	3・後期	120	4			○	○		○		
学年合計				24科目	1,110単位時間（ 37単位）										
合計				76科目	3,330単位時間（ 111単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学年の学期区分	前期・後期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形　論ＩＡ	・衣服全般の基礎知識を習得する。（縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察） ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 ・ドレーピングの基礎知識を習得する。（ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング） 1　基礎Ｉ（一般知識・縫い方の基礎）　基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2　体型研究　身頃原型・スカート原型（1/4・実物作図）・トワル製作・試着補正・レポート 3　スカートＩ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 4　シャツブラウスＩ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 6　子供服　デザイン・パターン・実物製作・レポート 7　バザー作品　文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8　スカートⅡ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 9　ジャケットＩ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 10　ワンピースドレスＩ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 11　パンツＩ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 12　ドレーピング基礎（文化ボディ）　胸ぐせダーツのバリエーション（アームホールダーツ）	1・前期	60	2	○			○		○		
○			服装造形　デザインＩＡ		1・前期	30	1			○	○		○		
○			服装造形　パターンメーキングＩＡ		1・前期	30	1			○	○		○		
○			服装造形　ソーイングＩＡ		1・前期	90	3			○	○		○		
○			服装造形　論ＩＢ		1・後期	60	2	○			○		○		
○			服装造形　デザインＩＢ		1・後期	90	3			○	○		○		
○			服装造形　パターンメーキングＩＢ		1・後期	90	3			○	○		○		
○			服装造形　ソーイングＩＢ		1・後期	120	4			○	○		○		
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について、関心を持たせることを目標とする。前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、工業用ミシン、アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得する。後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。	1・通年	30	1	○		△	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究ＩＡ	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究ＩＢ	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後	30	1			○	○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・通年	30	1	○			○		○		
○			ファッションデザイン画Ｉ	ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○	
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾デザイン論Ⅰ	教育目標　:服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定:色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・通年	30	1			○	○		○		
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			キャリア開発Ⅰ	・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			校外研修Ⅰ	・都会生活から離れた「山荘」における団体生活の体験。 ・野外活動・体育活動など諸活動を通して指導力・協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める。	1・前期	30	1			○		○	○		
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動（コンテスト活動など）への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○		○		
合計				23科目	1,110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルデザイン　論ＩＡ	人体の構造や運動機能を視野に入れ、素材の特性を活かした作品を平面裁断、立体裁断のテクニックにより個々のデザインの発想力と表現力を身につける。 1、ドレーピング スカート、胸ぐせダーツ、ブラウス ドレーピングによるデザイン発想（実物製作・レポート） 2、機能服からのデザイン発想 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 3、バザー作品 文化祭バザー作品、グループ製作 4、ジャケット ドレーピング、作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 5、民族服 作図理論 6、皮革作品 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 7、修了製作 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・前期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習　デザインＩＡ		2・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習　ドレーピングＩＡ		2・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習　実技ＩＡ		2・前期	60	2			○	○		○		
○			アパレルデザイン　論ＩＢ		2・後期	60	2	○			○		○		
○			アパレルデザイン演習　デザインＩＢ		2・後期	90	3		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習　ドレーピングＩＢ		2・後期	60	2		○		○		○		
○			アパレルデザイン演習　実技ＩＢ		2・後期	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅡＡ	将来的に戦力となるデザインワークを身に付け、各自の個性とセンスの光る感性あるファッションデザイン画の表現を目標とする。	2・前期	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅡＢ	将来敵に戦力となるデザインワークを身に付け、各自の個性とセンスの光る感性あるファッションデザイン画の表現を目標とする。	2・後期	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デッサン	ものを見る目を養う＝対象物を客観的に見つめ。基本構造（構成、動き、立体感、質感など）をとらえる。見たものをそのまま描ける力＝感覚神経と運動神経の連係プレーを鍛える。描く、という事によって自分のクリエーションに新たな視点を見つける。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			色彩論	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザインに活用するための配色の技術、色彩計画の考え方を学習する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			造形演習	発想―表現―コミュニケーション　3つを連動させながらクリエーションの力をつける。特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかり組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。発想力、（特にグラフィックにおける）表現力、、伝える力（プレゼンテーションスキル）の強化を目指します。	2・後期	30	1		○		○			○	
○			アパレル染色演習Ⅰ	染色に関する基礎的な知識と技法を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレル制作に応用展開できる能力を養う。さらに、染色・加工の観点からテキスタイルについての理解を深めさせることを目標とする。	2・前期	30	1		○		○		○		
○			アパレル素材論Ⅱ	1年次の「アパレル素材論Ⅰ」で学んだ素材の知識を踏まえ、基本的知識を充実させ、アパレルデザインにおけるテキスタイルという観点から、素材の見方、選択のポイント、テキスタイル産地などについて、さらに消費性能面から判断し布地の選択や品質表示にもつながるよう知識と理解を深める。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			服装解剖学Ⅱ	1年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測（石膏計測）実習により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計（デザイン）を行う。	2・前期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス論Ⅰ	ファッション業界に於けるビジネス業務推進に必要な知識について具体例を通して学習しながらファッションビジネスの基礎知識を学習・修得する。 既存のブランドをグループごとに担当し、企業と同じ手順で企画を行う事により、実践的なビジネス演習を行い修得する。	2・後期	30	1	△	○		○			○	○

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	アパレル商品企画Ⅰ	1. アパレル製造業のデザイナーの実務をベースに、企画MDの実学を通しデザイナーの育成を目指す。 2. ブランディングを学び、オリジナルブランド立案に伴うコンセプト設計やターゲット設定、ブランドのゾーニングなどの基本を習得。	2・後期	30	1	○			○			○	
○			西洋美術史	私たちの美意識の源泉となっている西洋美術のなりたちをたどる。 過去の名作に通じて、美術表現の意味や可能性について考える。 また、各時代：作者の様式を成立させた文化的、社会的背景を探ることにより美と社会との関わりを意識する。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		英会話Ⅰ	英会の基本的な文法を学習したレベルを想定し、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。ファションを専攻しているがくせいなのでファッションに関する語彙なども導入する。	2・通年	60	2			○	○		○		
	○		フランス語Ⅰ	フランス語を初めて学ぶ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単で日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニーケーションをフランス語でできることを目指す。	2・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワークⅠ	ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上を目指す。 CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術 ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作と ペイント系ソフト/Photoshopでの基本操作	2・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		創作研究Ⅰ	コンテストを中心に積極的にデザイン画を描き、デザイン感覚と技術を養う。また、入選した場合は製作時間として作品製作に取り組む。コラボレーションなどのイベントにも参加する。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			キャリア開発Ⅱ	企業が学生に望む資質として、①コミュニケーション能力②協調性③主体性の3つが上位を占めています。就職戦線は年々厳しさが増してきており、専門的能力のみならずバランスのとれた「人間力」重視の考え方が目立っています。 企業側が「即戦力的人材」を求めている現況から、協調性、積極性、意思疎通の実効性等に重点を置き各自の実践力を養成して期待される社会的視野を持った人間として育成していきたい。	2・後期	30	1			○	○			○	
○			校外研修Ⅱ	日本の伝統文化の中心である古都（京都、奈良）に赴き、仏教美術、仏像建造物、庭園などの美に触れ、またファッションショーや美術館の展示を鑑賞することによって感性、発想力を養い、美の本質を知り、教養を高める。	2・後期	30	1			○		○	○		
○			特別講義Ⅱ	アパレル産業の現状、先輩の実体験からのアドバイス、そして服飾造形にかかわる知識として、レギュラー授業に加えたい内容の講義。	2・通年	60	2	○			○		○		
	○		企業・学内研修a	アパレル業界の現場・現状を把握させるために、アパレル企業で実際に研修を受けることで、学校教育で体験できない実学を学ぶ。就職希望者の企業研修期間中に平行して、企業研修に参加しない学生は学内研修を受講	2・後期	30	1			○		○	○		
	○		企業・学内研修b		2・後期	30	1			○		○	○		
		○	コラボレーションb	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する。	2・後期	30	1			○	○		○		
学年合計				29科目	1,110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			メンズデザイン論A	メンズデザインおよび服飾造形に関する理論的知識、審美的見識を有する人材を育成するために、専門的かつ高度な技能を教授研究するとともに、メンズアパレル業界に広く寄与できうる人材の輩出を目的とする。 1　紳士服の基本知識　スタイル　コーディネイト　副資材 2　原型論　衣服製作のための人体計測　男子原型の作図法　原型論 3　シャツ　『フレックスジャパン株式会社』とのコラボレーション「シャツ講座」連動　実物制作 4　パンツ　デザイン展開と作図　パンツの縫製法／示範　実物制作 5　ネクタイ　ネクタイの縫製 6　バザー作品　会社形態によるブランド設定コンセプト／デザイン提案　実物制作 7　部分縫い　箱ポケット／フラップ付き両玉縁／チケット／剣玉縁 8　ベスト　デザイン展開と作図　ベストの縫製法／示範　実物制作 9　卒業制作　ジャケットのデザイン展開と作図　ジャケットの縫製法／示範（毛芯仕立て） （フォーマルウェア　コート＝講義のみ）　実物制作　卒業ショー	3・前期	60	2	○			○		○		
○			メンズデザイン演習　デザインA		3・前期	90	3		○	△	○		○		○
○			メンズデザイン演習　実技A		3・前期	60	2			○	○		○		○
○			メンズデザイン論B		3・後期	60	2	○			○		○		
○			メンズデザイン演習　デザインB		3・後期	90	3		○	△	○		○		○
○			メンズデザイン演習　実技B		3・後期	60	2			○	○		○		○
○			パターンデザイン論A	メンズアパレル製品型紙の設計過程を実寸演習させ、その構造と理論を学修させる。メンズパタンナーの実技試験に対応する作図法で・シャツ類・テーラードトラウザーズ類を作図演習し、既製服の型紙設計（パターンデザイン）を一般論（技術論は除く）で理解させる。	3・前期	60	2	○			○			○	
○			パターンデザイン論B	メンズアパレル製品型紙の設計過程を実寸演習させ、その構造と理論を学修させる。メンズパタンナーの実技試験に対応する作図法で・ジャケット類・ベスト類・コート類を作図演習し、既製服の型紙設計（パターンデザイン）を一般論（技術論は除く）で理解させる。	3・後期	60	2	○			○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グレーディング	アパレルCADを利用した演習を通し、合理的な考えでグレーディング（サイズ展開）を主に学ぶことを目標とする。グレーディングの基になるパターン展開・平面作図に始まり、メンズ体型を考慮したサイズ展開をおこなう。また、「メンズパターン論」とリンクさせ、手作業の内容をCAD上での再現に必要な要素の理解を深める。	3・後期	30	1		○		○		○		
○			工業ニット演習	ニットの基礎知識・商品知識を習得し、アパレルにおけるニット製品を総合的に理解する。	3・前期	30	1		○		○		○		
○			メンズファッション環境情報	メンズファッションデザイナーとしての情報収集能力、及び情報の咀嚼、活用能力の育成を目標とし、卒業後企業において、即戦力として活躍できるレベルの、実務的ワーキングスキル修得を目指します。	3・通年	60	2	○			○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅲ	どのような方法でアパレル業界に携わり社会に結びついていくか自ら考えようとする能力と学生各自のアイデンティティーの確立を基にメンズデザインのプロとして業界に対し戦力育成を目指し就職対応のデザイン画ファイルを制作する。	3・通年	60	2			○	○		○		
		○	アパレルマーチャンダイジングⅡ	1. アパレル製造業の企画実務をベースに、クリエイションとビジネスの両面からみたデザイナーの育成を目指す。 2. ブランディングの過程(2年時作成資料)を通し、店頭MDに即した企画立案計画、商品企画＆デザイン、並びにプレゼンテーション方法などの実践を行い、デザイナーとして必要なMDのスキルアップを行う。	3・前期	30	1	○			○			○	
○			グラフィックワーク	アドビ・イラストレーターを使って精密なハンガーイラストの作成とデザイン展開。先染め柄やプリント柄の製作とシュミレーション。「デザインおよび企画プランの美しいビジュアル表現」を可能にする為のベース技術を学ぶ。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			プリントデザイン	1. デジタルテキスタイルプリンターを利用したテキスタイルプリントの工程・特徴を理解する。 2. Photoshopを利用してプリント柄を作成できる技術を身につける。	3・後期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			企画論	学生レベルではなく企業間で行われている実践レベルのプレゼンテーションや企画立案を体験することにより就職活動や社会に出てからの即戦力になる企画力・技術を習得	3・前期	30	1	△		○	○			○	○
○			メンズファッション史	古代から現在までのミリタリーウエア（軍服）などが公式服になっていく過程、また近代紳士服の原型であるスーツスタイルの誕生からデザインの変遷を見ていく。第二次世界大戦以降はストリートに見るメンズファッションをその時代の音楽や映画も合わせて考察する。そして男性服の流れを見る中で、デザインの発想力を高めていく。	3・通年	60	2	○			○		○		
	○		英会話Ⅱ	英会話Ⅰを履修した学生対象のコースで、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みる。	3・通年	60	2			○	○		○		
	○		フランス語Ⅱ	フランス語を1年学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単で日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニーケーションをフランス語でできることを目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワークⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。衣服製品図/デジタルファッション画の展開力、応用力、細部表現等、実務能力習得を目指す。ブランドロゴ及びブランディングツール製作を通してグラフィックによるファッションブランディングの意識を養う。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		創作研究Ⅱ	コンテストを中心に積極的にデザイン画を描き、デザイン感覚と技術を養う。また、入選した場合は制作時間として作品制作に取り組む。コラボレーション等のイベントにも参加する。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅲ	主にアパレル業界で活躍している講師を招き、実践経験をふまえた生の情報、リアルタイムな話題などを短期集中で講義していただき、就職や個人の将来の参考、目標とする。	3・通年	60	2	○			○		○		
		○	コラボレーションc	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する。	3・後期	30	1			○	○		○		
○			卒業研究・創作	各自（又は、グループ）で研究テーマを決め、習得した知識技術を駆使し一年を通して研究、制作を行う事により探究心、計画性、自覚性の向上を目指す。	3・通年	120	4			○	○		○		
学年合計				24科目	1,110単位時間（ 37単位）										
合計				76科目	3,330単位時間（ 111単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学年の学期区分	前期・後期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。